



FIRST BROTHERS

2015年11月期第2四半期 決算説明資料

ファーストブラザーズ株式会社【3454】

2015年7月14日

I. 15.11期2Q決算の概要	P.03
II. 成長戦略の進捗	P.07
III. TOPICS	P.12
IV. 参考資料	P.16

I

15.11期2Q決算の概要

1-1 15.11期2Q – 連結損益計算書

(単位:百万円)	15.11期 2Q (累計実績)	15.11期 2Q (4/8予想)	達成率 (%)
売上高	3,061	3,046	100.5
売上総利益	2,836	2,817	100.7
投資運用事業	2,097	2,098	100.0
投資銀行事業	738	719	102.7
販売費及び一般管理費	560	572	97.8
営業利益	2,276	2,245	101.4
経常利益	2,192	2,162	101.4
四半期純利益	1,237	1,244	99.4

連結損益計算書のポイント

全体

- ・ 4/8発表済み修正業績予想に沿った着地

投資運用事業

- ・ ファンド運用資産の売却が好調であったことにより、売却に係るフィー収入(インセンティブフィー、ディスポジションフィー)を大きく計上

■ファンドAUM(2Q末) 約700億円

投資銀行事業

- ・ 安定収益源である自己保有賃貸物件からの収益が拡大
- ・ セイムボート投資の実行、自己保有賃貸物件の新規取得とともに、順調な進捗

■セイムボート投資実施済案件AUM(2Q末) 約200億円

■自己保有賃貸物件AUM(2Q末) 約86億円

1-2 15.11期2Q – 連結貸借対照表

(単位:百万円)	14.11期	15.11期 2Q	増減
流動資産	6,074	15,349	+9,274
現金及び預金	1,305	4,788	+3,482
販売用不動産	3,674	8,760	+5,085
営業投資有価証券	416	540	+124
固定資産	1,020	1,462	+441
その他の関係会社 有価証券	743	1,199	+455
負債	3,848	9,324	+5,475
ハンリコースローン	797	791	▲6
コーポレートローン	2,190	6,633	+4,443
純資産	3,246	7,487	+4,241

連結貸借対照表のポイント

流動資産

- ・ 新規上場に伴う資金調達及び投資利益の実現により、現預金残高が増加
- ・ 安定収益源となる自己保有物件(販売用不動産に計上)の積上げを継続
- ・ 不動産以外の投資案件の増加に伴い、従来は投資有価証券(固定資産)に含んでいた持分法適用外の自己勘定投資を、営業投資有価証券として新たに独立表示(14.11期の貸借対照表は組替えて表示しています)

固定資産

- ・ 持分法適用外のセიმボート投資は、そのエクイティの額をその他の関係会社有価証券に計上

負債

- ・ コーポレートローンは自己保有物件のバックファイナンス

■加重平均借入期間 34.7年

※ 連結貸借対照表の内訳は、主要な勘定科目のみを表示しています。

1-3 15.11期2Q – 通期業績予想について

(単位:百万円)	15.11期 2Q (累計実績)	15.11期 通期 (4/8予想)	進捗率 (%)
売上高	3,061	4,118	74.3
売上総利益	2,836	3,529	80.4
投資運用事業	2,097	2,498	83.9
投資銀行事業	738	1,031	71.7
販売費及び一般管理費	560	1,208	46.3
営業利益	2,276	2,321	98.1
経常利益	2,192	2,170	101.0
四半期純利益/ 当期純利益	1,237	1,249	99.0

足元の状況と通期の見通し

投資運用事業

- ・ 国内の不動産市況は引き続き活況
- ・ 低金利下でファイナンス環境は非常に良く、投資家の投資意欲も旺盛
- ・ バリュエーションの規律を保ち、投資機会を厳選

投資銀行事業

- ・ 安定収益源である自己保有賃貸物件からの収益が拡大
- ・ 不動産以外の当社グループの強みを活かせる分野への投資も少しずつ拡大

全体

- ・ 2Q末時点で通期業績予想に対する進捗率が高いものの、変動要素を考慮し下期の業績を保守的に見込み、現時点では通期業績予想の変更なし

II

成長戦略の進捗

前提

顧客投資家のリターン最大化という投資姿勢の維持

⇒ 顧客の信頼を獲得し、当社グループのブランド力を強化

Point1

当社グループの組成する**ファンドへのセიმボート投資**

⇒ 従来とは別次元の収益を確保し、飛躍的に利益成長

Point2

安定収益源となる**賃貸物件への投資**

⇒ 強い収益基盤を確立し、業績の振幅を極小化

中長期

既存事業のプラットフォームや強みを活用した**収益機会の拡大**

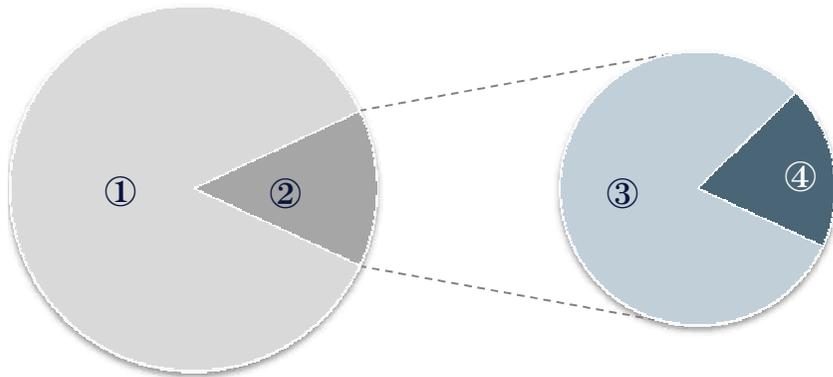
⇒ 不動産の外へ事業の裾野を広げ、持続的な成長を可能に

Point1

セიმボート投資(顧客との共同投資)の状況 - 2015年7月14日現在

運用中ファンドAUM^{※1}総額
約570億円

セიმボート投資済
約80億円



- ① 顧客投資家のみが投資するファンド
- ② セიმボート投資実施済ファンド
- ③ ②のうち顧客投資家出資持分
- ④ ②のうち当社グループ出資持分

セიმボート投資のポイント

投資運用事業において運用するファンドに対して、当社グループが顧客投資家と共同で投資を行うもの

自ら投資を行うことにより、ファンド運用に係るフィーだけでなく、ファンドからのキャピタルゲイン及びインカムゲインを享受することが可能

顧客である投資家と運用会社の利害関係が明確に一致するため、一般的には顧客からも歓迎される

現状の高い市場流動性を利用した投資戦略によりAUMは変動

セიმボート投資実施済

ファンドのAUM^{※1}総額 約80億円

当社グループ出資額 410百万円

平均出資比率^{※2} 約20%

平均LTV^{※3} 約83%

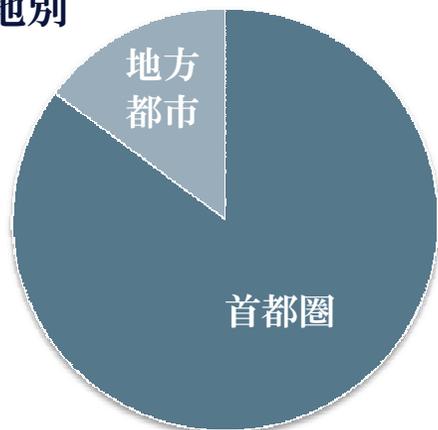
※1 物件の取得価格(税抜)により算出

※2 エクイティに占める当社グループの出資割合

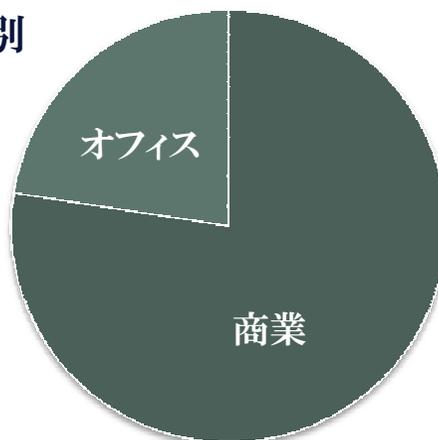
※3 物件の取得価格(税抜)に対する負債比率

Point2 賃貸物件への投資(自己勘定による不動産投資)の状況 — 2015年7月14日現在

所在地別



用途別



(複合ビルについては、主要な用途を集計)

賃貸物件投資のポイント

首都圏または地方都市の一等地に立地する賃貸物件のうち、長期的に安定して高い利回りが期待できる物件を厳選して取得

取得対象は主に10億円前後の規模の物件であり、市場流通量が豊富

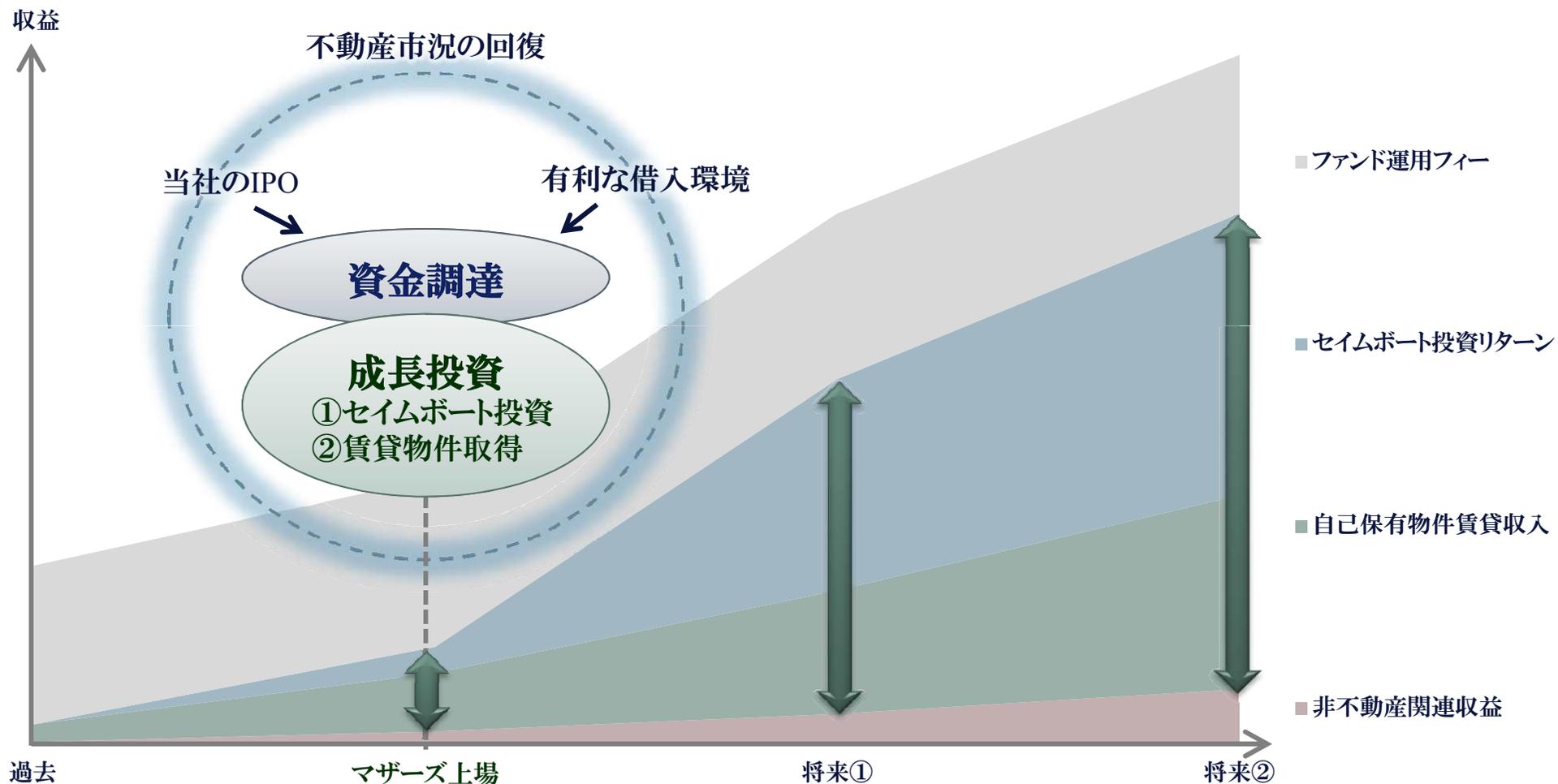
今期の新規取得は順調に進捗

■ 自己保有賃貸物件AUM(2015/7/14時点) 約86億円

取得時期	所在地	用途	NOI※ (単位:百万円)
14.11期2Q	首都圏	オフィス・商業	111
14.11期2Q	地方都市	商業	87
14.11期4Q	首都圏	オフィス	64
15.11期1Q	首都圏	商業・住宅	119
15.11期2Q	首都圏	商業	146
15.11期2Q	首都圏	商業・オフィス	53
合計(利回り)	—	—	582(6.8%)

※ 不動産から得られる純収益(実績値)

足元の環境を最大限に活用した成長投資を行い、従来とは異なる収益構造へ進化



(注) 図はあくまでもイメージであり、当社グループの実際の業績値や業績予想数値を表すものではありません。



TOPICS

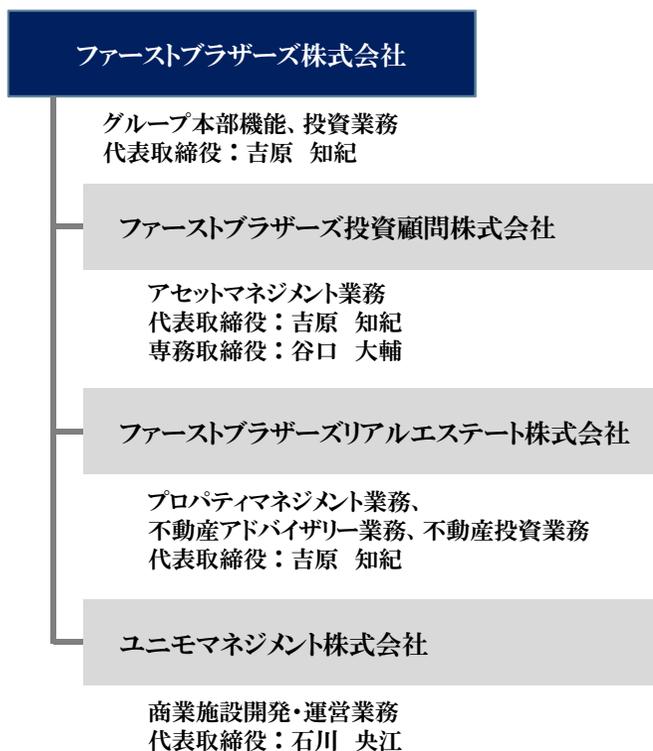
3-1 組織体制の変更

2015年6月1日付で、子会社の商号変更及び代表取締役の異動を実施しました。

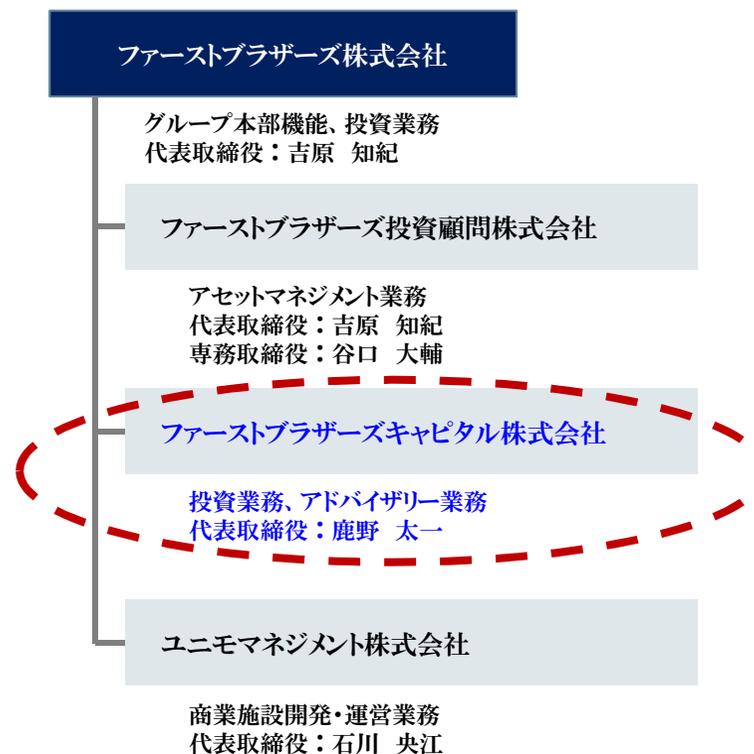
同時に、当社よりファーストブラザーズキャピタル株式会社へ自己勘定投資に係る機能の一部を移管しています。

自己勘定投資体制の充実・強化を図ることにより、グループ全体の企業価値向上を目指します。

【変更前】



【変更後】



(注) 主要な子会社のみを記載しています。

3-2 ファーストブラザーズキャピタル株式会社について

ファーストブラザーズキャピタル株式会社 概要

事業内容	投資業務(自己勘定投資関連) アドバイザー業務																
資本金	8,000万円																
株主	ファーストブラザーズ株式会社(100%)																
役員等	<table border="0"> <tr> <td>代表取締役</td> <td>鹿野 太一</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>吉原 知紀</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>辻野 和孝</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>堀田 佳延</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>土田 猛</td> </tr> <tr> <td>執行役員</td> <td>青木 朋</td> </tr> <tr> <td>執行役員</td> <td>佐藤 顕人</td> </tr> <tr> <td>執行役員</td> <td>澤田 和紀</td> </tr> </table>	代表取締役	鹿野 太一	取締役	吉原 知紀	取締役	辻野 和孝	取締役	堀田 佳延	監査役	土田 猛	執行役員	青木 朋	執行役員	佐藤 顕人	執行役員	澤田 和紀
代表取締役	鹿野 太一																
取締役	吉原 知紀																
取締役	辻野 和孝																
取締役	堀田 佳延																
監査役	土田 猛																
執行役員	青木 朋																
執行役員	佐藤 顕人																
執行役員	澤田 和紀																
登録・免許	宅地建物取引業(東京都知事(2)第90107号)																
所在地	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号																

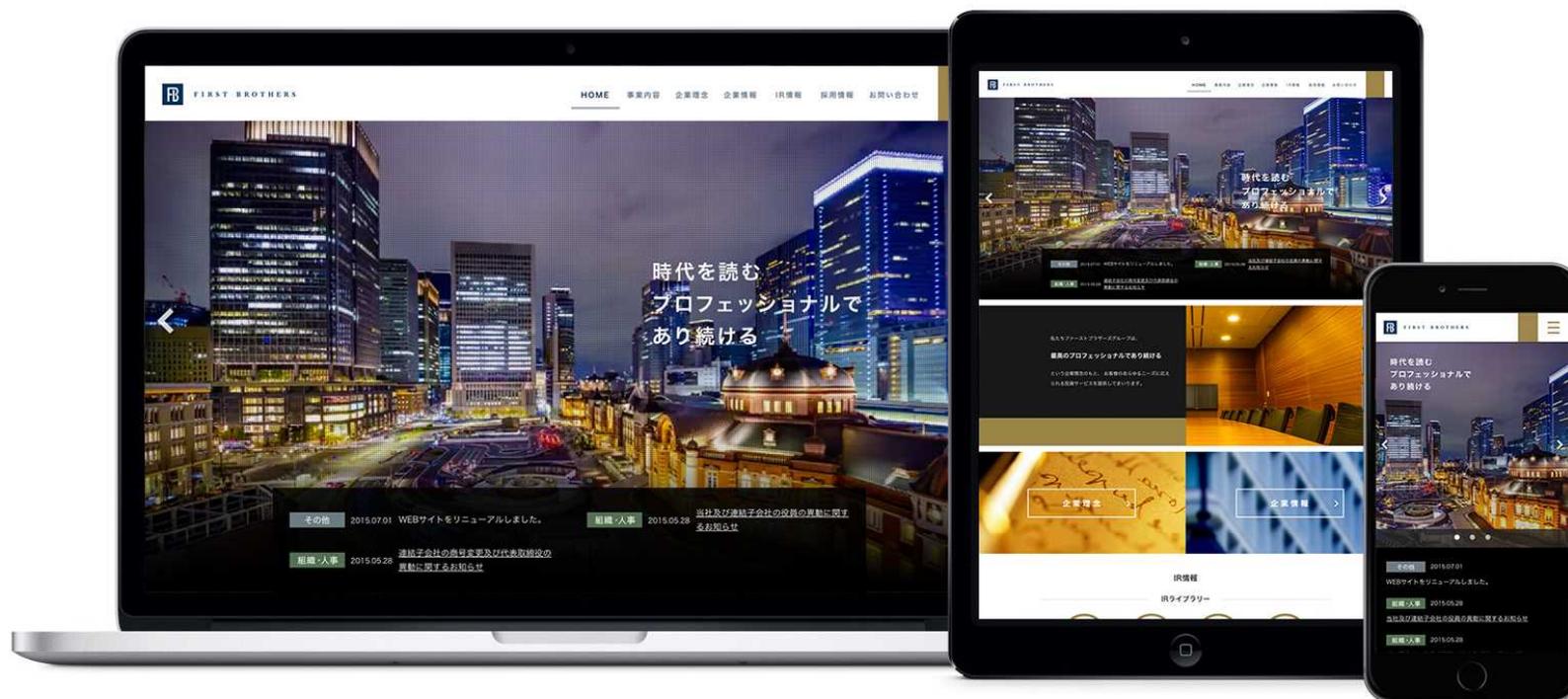
新任代表取締役 鹿野 太一 略歴

昭和59年4月	三井信託銀行(株)(現 三井住友信託銀行(株))入社
平成15年4月	同 不動産投資営業部長
平成15年11月	同 不動産投資顧問部長
平成16年7月	三井物産ロジスティクス・パートナーズ(株) 取締役
平成18年5月	アルファ・トラスト・リアルティ・アドバイザーズ(株) 取締役社長
平成20年1月	アルファトラストホールディングズ(株) 取締役社長 兼 アルファアセットマネジメント(株) 取締役社長
平成23年2月	中央三井信託銀行(株)(現 三井住友信託銀行(株)) 法人業務推進部長
平成23年7月	同 執行役員法人業務推進部長
平成23年12月	同 執行役員大阪支店長
平成24年4月	同 執行役員 大阪中央支店長
平成25年4月	三井住友トラスト不動産(株) 取締役兼常務執行役員
平成27年1月	ファーストブラザーズリアルエステート(株) (現 ファーストブラザーズキャピタル(株)) 入社
平成27年6月	同 代表取締役社長(現任)

3-3 コーポレートウェブサイトのリニューアル

2015年7月1日付で、コーポレートウェブサイトをリニューアルオープンしました。

当社グループのメッセージを分かりやすくお伝えすることを目指し、モバイル端末にも新たに対応しています。



 <http://www.firstbrothers.com/>

IV

參考資料

会社名	ファーストブラザーズ株式会社
英字会社名	First Brothers Co., Ltd.
代表者	代表取締役社長 吉原 知紀
設立	2004年2月4日
所在地	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号 丸の内ビルディング25階
事業内容※	主に不動産・不動産信託受益権を対象とする 投資運用事業および投資銀行事業
資本金	15億89百万円
役職員数※	57名（2015年5月31日現在）

※ グループ連結ベース

不動産投資・証券化のプロフェッショナル集団として、2004年から事業運営を開始



2007.9 金融商品取引法施行

2011年12月
ファーストブラザーズ投資顧問(株)へ
投資運用事業を分割

2008年4月
投資運用業登録

2015年2月
東証マザーズ上場

2004年2月 創業

不動産を投資対象*とした私募ファンド運営、不動産アセットマネジメント業務の開始

2008.9 リーマンショック

2011.3 東日本大震災

2008.10 ニューシティレジデンス破たん

2012.11 第2次安倍政権発足

2004年～2007年：創業期

事業基盤の形成

創業期から比較的大規模な案件の取得、運用、売却に取り組む

2007年～2012年：事業拡大期

金商法に対応し各種ライセンス整備

機能子会社等の設立、周辺分野へ進出
レスキュー案件等の受託が急増

2011年～：成長基盤形成期

商業施設案件の取組みを強化
自己勘定投資を本格的に開始

※ 数十億円～数百億円規模のオフィスビル、商業施設、集合住宅など、比較的規模の大きな収益物件を投資対象としています。

投資運用事業

顧客投資家の資産運用

顧客 : 機関投資家 等
形式 : 私募ファンド
投資対象 :
数十～数百億円規模の収益不動産

【主な収益】

- ・ アクイジションフィー
- ・ アセットマネジメントフィー
- ・ ディスポジションフィー
- ・ インセンティブフィー

投資銀行事業

当社グループの資産運用

顧客との共同投資(セიმボート投資)

自己資金による投資(自己勘定投資)

- ・ 不動産投資
 賃貸不動産(十億円前後)への投資
- ・ その他の投資
 債権投資、ベンチャー企業投資など

各種アドバイザー業務

不動産信託受益権取引の媒介
事業再生支援、M&Aに係る助言 など

【主な収益】

- ・ キャピタルゲイン、インカムゲイン
- ・ 不動産賃貸収入、不動産売却収入
- ・ アドバイザーフィー

Point1

プロフェッショナル集団の知識と経験

不動産証券化ビジネスの黎明期から活躍する人材や専門性の高い人材の集団

代表取締役社長

吉原 知紀

- ファーストブラザーズグループ創業者
- 信託銀行、外資系投資銀行を経て現職
- 投資分野において豊富な経験・実績と幅広い人脈を持つ

取締役

辻野 和孝

- 信託銀行、外資系投資銀行及びアセットマネジメント会社を経て当社グループに参画
- コンプライアンス及びリスク管理に精通
- 不動産鑑定士

取締役

堀田 佳延

- 信託銀行、監査法人及びコンサルティング会社を経て当社グループに参画
- 投資ストラクチャーに精通
- 公認会計士、不動産鑑定士

取締役

田村 幸太郎

- 牛島総合法律事務所パートナー弁護士
- 国土交通省不動産投資市場戦略会議座長
- 不動産証券化における法務面の第一人者

社外取締役

渡辺 達郎

- 公益財団法人金融情報システムセンター理事長
- 旧大蔵省、金融庁証券取引等監視委員会事務局長、預金保険機構理事、日本証券業協会副会长等、金融行政の要職を歴任

ファーストブラザーズキャピタル
代表取締役社長

鹿野 太一

- 信託銀行役員、J-REIT資産運用会社取締役を経て現職
- 金融業界に置いて豊富な経験と人脈を持つ

ファーストブラザーズ投資顧問
専務取締役

谷口 大輔

- 大手ゼネコン、外資系投資ファンドを経て現職
- 累計1兆円を超える投資案件に関与

ファーストブラザーズ投資顧問
取締役

川島 淳一

- 外資系投資ファンド、総合不動産企業を経て現職
- 累計3,000億円を超える投資案件に関与

顧問

岩下 正

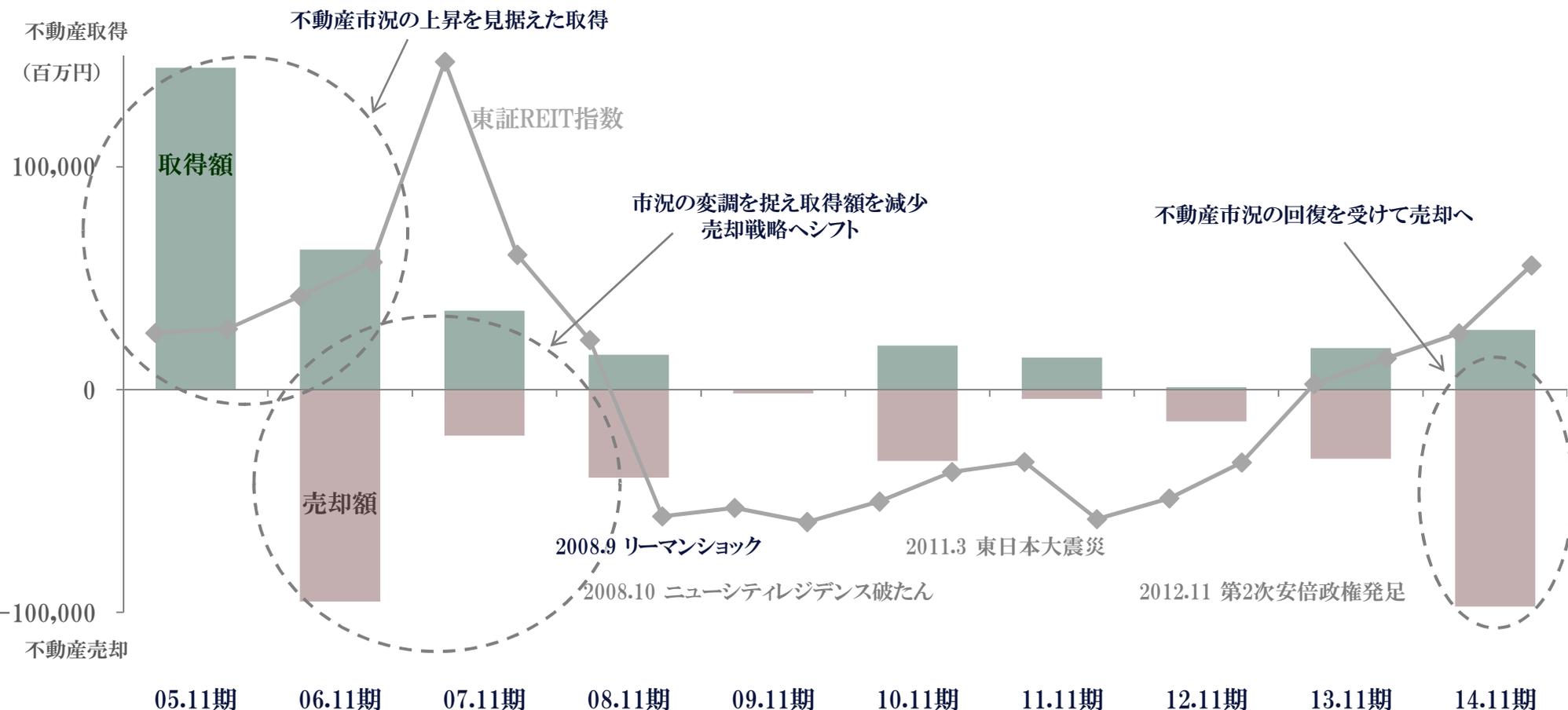
- 国内銀行非常勤取締役、大手証券会社顧問
- 旧大蔵省財務総合政策研究所長、駐米国公使、国際協力銀行理事等を経て現職

Point2

不動産市況の変動をくぐりぬけてきたトラックレコード

私募ファンドの不動産投資案件をタイミングを捉えて取得・売却し、顧客投資家の利益最大化を実現

投資案件の取得/売却額



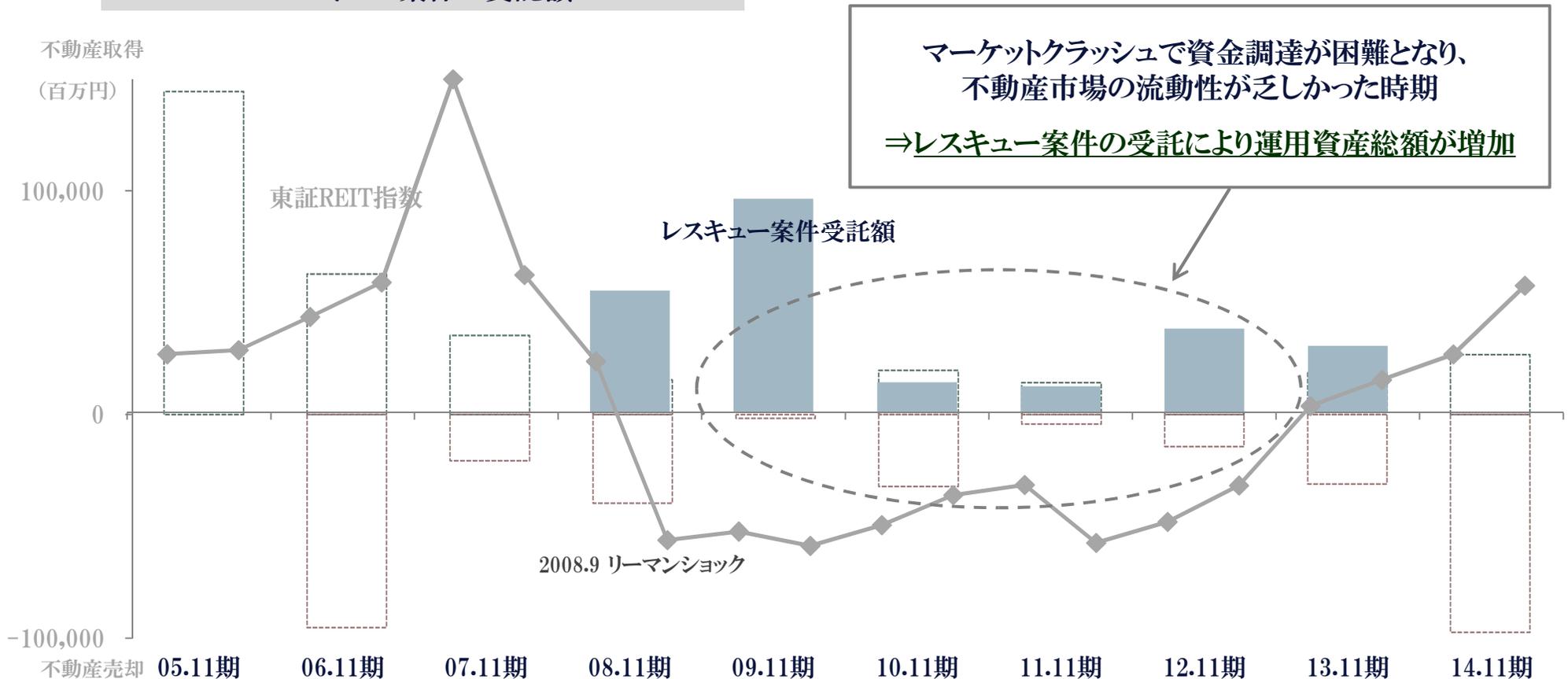
(注) 取得時点は合意時期で算出。東証REIT指数は5月末、11月末

Point2

不動産市況の変動をくぐりぬけてきたトラックレコード

市況悪化時はレスキュー案件を受託して運用資産総額が増加

レスキュー案件の受託額



(注)レスキュー案件:他社が運用していたファンドについて、ローンのデフォルトなど様々な理由により、そのAM(アセットマネジメント/運用)を、投資家やレンダー(銀行など)から受託することになった案件。リーマンショック後の市況悪化時において、デフォルト案件がないなどの理由で信頼され、当社グループはレスキュー案件を多く受託しています。

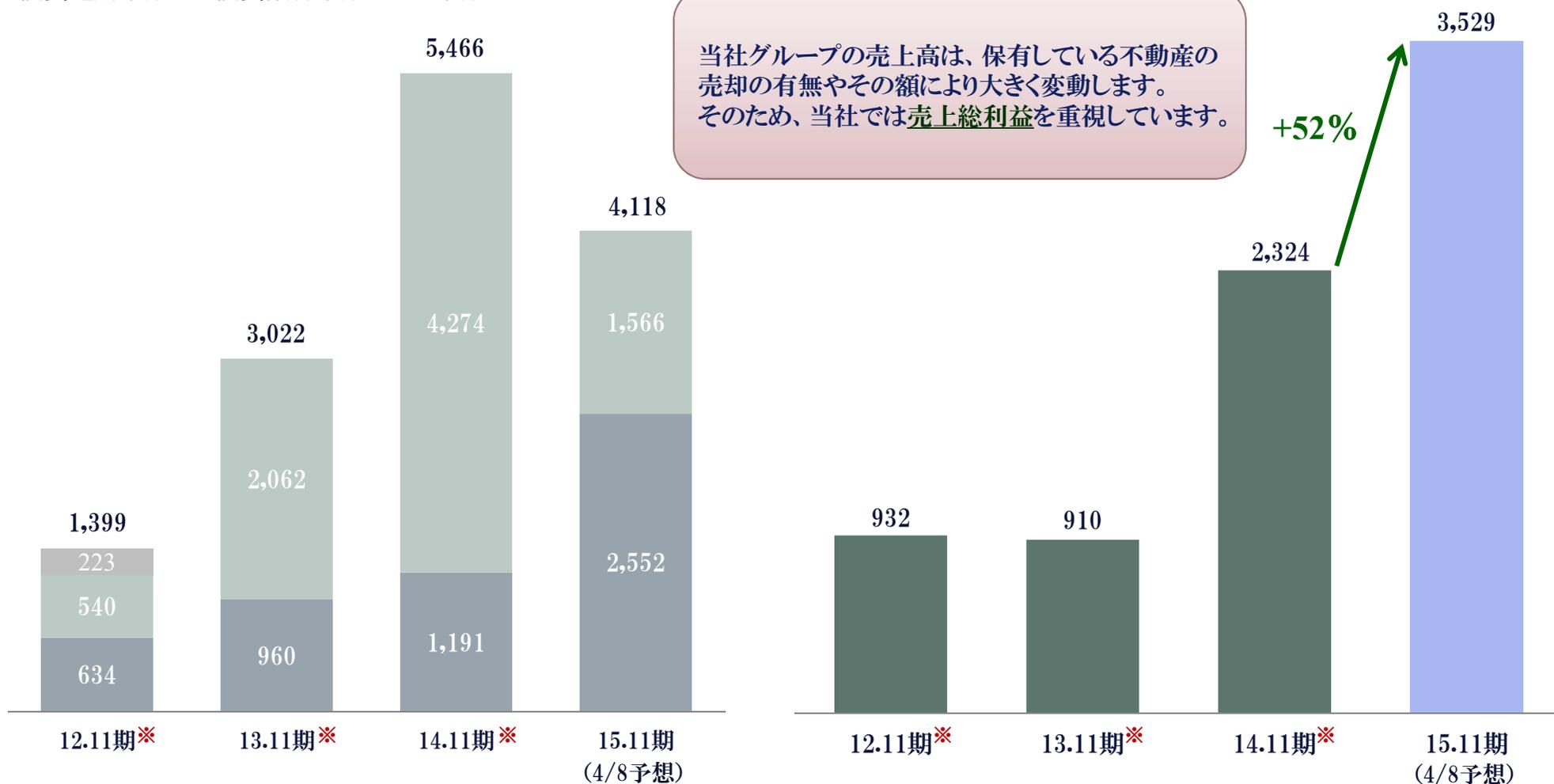
売上高

単位：百万円

売上総利益

単位：百万円

■ 投資運用事業 ■ 投資銀行事業 ■ IT事業



* 当社グループに帰属しない数値(特殊要因)を除いた数値で表示しています。特殊要因の詳細については、P.25をご参照ください。

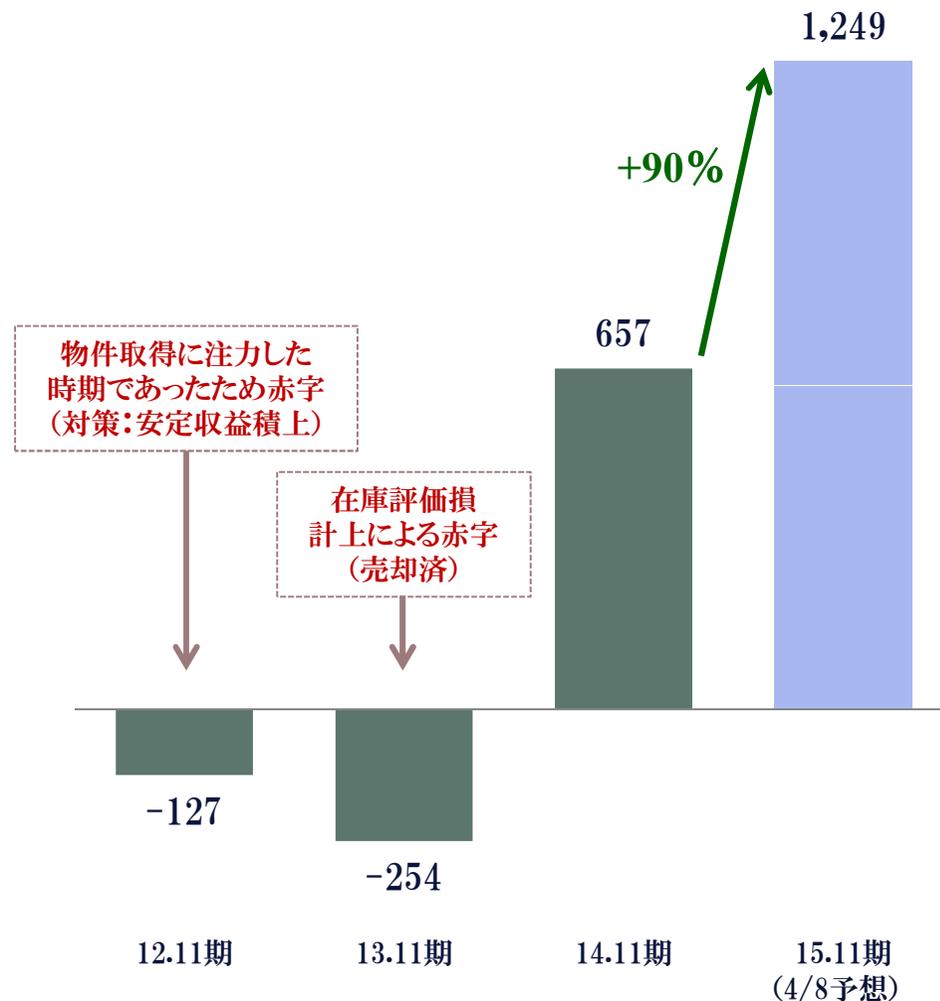
営業利益

単位：百万円



当期純利益

単位：百万円



※ 当社グループに帰属しない数値(特殊要因)を除いた数値で表示しています。特殊要因の詳細については、P.25をご参照ください。

14.11期までの当社グループの連結の範囲には、特殊なファイナンス手法を用いた特別目的会社(以下「当該SPC」)が含まれていました。当該SPCに係る業績数値(売上高、売上総利益、営業利益及び経常利益)は、当社グループに全く帰属しないものであり、連結損益計算書上、少数株主利益として当該SPCにかかる利益の全額が控除されています。当社グループの収益構造と今後の成長性をより平易に理解して頂くため、本資料においては、過去の連結決算数値から当社グループに帰属しない損益数値を控除した数値(当該SPCを連結の範囲から除外した場合の数値)を掲載しています。

なお、当該SPCについては、14.11期中に、匿名組合契約が終了したことに伴い、連結の範囲から除外しています。また、今後については、同様の事象は発生しない見込みです。

- 本資料は、当社グループに関する情報の提供を目的として作成されておりますが、内容について当社グループがいかなる表明・保証を行うものではありません。
- 本資料の作成に際し、当社グループは細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データのダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わず一切責任を負うものではありません。
- 本資料に記載された内容は、当社グループが合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、外部及び内部環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき当社グループが判断したものです。これらには外部及び内部環境の変化等のリスクや不確実性が内在しているため、実際の業績は本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なる可能性があります。
- 今後、新しい情報や事象の発生等があった場合においても、当社グループは、本資料に記載された内容の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- 本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。実際の投資に際しては、本資料に全面的に依拠することなく、ご自身の決定で投資判断を行っていただくようお願いいたします。

お問い合わせ先

ファーストブラザーズ株式会社 経営企画室IR担当

03-5219-5370

IR@firstbrothers.com



ありがとうございました。